



You Ain't Heard Nothin' Yet ! ヤー!

10月は『キンセンカ』

Vol.41 2022.10.10 えんじょい工房・『YAH!』編集室

仙人にでもなったか

たとえ横綱であつても、負け越せば地位は下がらないものの、「引退勧告」はたぶん受けることになるのだろう（その前にきつと休んでしまふ）。まして、反社会的な行為でもあれば（それが明るみに出れば）、その場所に留まることなどできようはずもない。なぜか、それは横綱である前に人であるからだ。人である前に何かの「長」であつて、何があろうと非難される筋合いはない。などという傲慢さは決して許されない。順番が逆で、「長」であるまえに人であることを忘れてはならない。「長」というものは、責任を取るための根拠みたくないものと認識すべきであろう。追求から逃れるための石垣であるはずがない。名人位というものは、それを目指すA、B…の各クラスがあつて、さらにはるかかなたに素人（趣味人）がいて、そうした下支えがあつてこそその上位なのである。下は上を目指す、上は一層身を正して在るべきなのだと思う。議長であるまえに議員だろう（その間に『幹部』というものがあつかもされない）、そして更に議員であるまえにあくまで人であろう、その順序が逆になると、人は傲慢になつたり、一般的には理不尽になつたりするのだろう。そして、限りなく悪人顔になる。

【こんな唄に出くわした⑨】 懺悔の値打ちもない

作詞 阿久 悠
作曲 村井邦彦
歌 北原ミレイ

あれは二月の 寒い夜
やつと十四になつた頃
窓にちらちら 雪が降り
部屋はひえびえ 暗かつた
愛というのじゃ ないけれど
私は抱かれて みたかつた

あれは五月の 雨の夜
今日で十五という時に
安い指輪を 贈られて
花を一輪 かざられて
愛というのじゃ ないけれど
私は捧げて みたかつた

あれは何月 風の夜
とうに二十歳も 過ぎた頃
鉄の格子の 空を見て
月の姿が さみしくて
愛というのじゃ ないけれど
私は誰かが ほしかつた

歴史に残る「昭和の名曲」である…と思う。ストーリー、曲、歌唱、いずれも申し分のない作品である…と思う。この唄には「幻の4番」というものがあつて（リリースされたものに入っていない）、テレビ放送などでは唄われているようなので、「幻」というのは言い過ぎ、むしろプロモーションの一環なのかもしれないが、監獄の中での状況設定が外された（もしくは外した）理由だと勝手に解釈している。

【今月の花 十・神無月】

キンセンカ

キンセンカ（金盞花）とは、花が金の盞（さかずき）のような姿をしているため名付けられたという。とにかく見映えがして、季節外れのさびしい花壇にはまことにありがたい。

【こんな映画を観てきた】

『天国と地獄』 -1963/日 監督:黒澤明

裕福な会社役員（三船敏郎）の息子と間違えられて、その運転手の息子が誘拐された。様々な思惑が交錯するなかで役員は運転手のために全財産を投げ出して身代金を犯人に受け渡し、無事子供を救出する。鉄橋を利用した現金受け渡しのシーンは鉄道ファンもなつとくの仕掛けで、鉄橋手前の住宅を監督の指示で取り壊してしまった（移設だったか？）という話も伝えられている。また白黒作品ながら、一個所のみ着色を施すなど新たな演出も、不可欠だが愉しいものだった。ピンク色の煙が立ち上る、件の細工された鞆が処分のために燃やされたためだ。山崎努の深い恨みに裏打ちされた知能犯ぶりが印象的だった。